

## 進む「総合的学習」の試み

—小川小学校(研究奨励校)の取り組みから—

### プールに住みついた「ヤゴ」の救出がきっかけで環境問題へ



学習活動は、日常生活の小さな体験や疑問がきっかけになることが多くあります。そして、もっと知りたいという興味や関心の高まりが学習の幅をどんどん広げると共に、そこから問題意識や新たな発



「やったゾー。やっとつかまえたヤゴを手に」満悦の児童(写真上と下)



ひざ小僧までつかって、プールのヤゴ救出。



救出したヤゴはビオトープに移し、育成観察。



パソコンを使った調べ学習で興味も倍増。

### 忠生第四小学校・木曾小学校 統合新設校の学校名

### 「木曾境川小学校」に決まる

町田市教育委員会では、子どもたちのより良い教育環境の整備、学校教育の充実を図るため、学校適正規模模倣配置事業実施計画(1999年3月策定)に基づき、小規模校が著しい市立小学校の統合を進めています。

その最初の統合となるのが、忠生第四小学校と木曾小学校、両校の新しい学校の名称が、先月の11月7日、臨時市議会において、木曾境川小

学校と決まりました。学校名については、両校の統合を推進するために設置された統合準備会において、境川小学校と選定されました。このことは、広報「まちだ」(1月21日付)、教育広報「まちだの教育」(3月23日付)でお知らせしましたが、6月の定例会市議会に地域の自治会の方から、校名に地名木曾を入れてほしいという請願が出されました。教育委員

会では、統合準備会の案を基本にしながら、地域の方々の意見を伺い、様々な角度から検討した結果、統合新設校の学校名を、木曾境川小学校と

して、8月4日の定例会教育委員会に決定いたしました。これに基づき、9月の定例会市議会に学校設置条例案を提出し、地元自治会の方から統合準備会で選定した「境川小学校」に決まっていたこと、市広報紙からは、境川小学校に決定したように思われる、「統合準備会での学校名アンケートの実施方法が不備である」等の指摘を受けました。

教育委員会では、学校名の選定を進める上での対応が不十分であったり、配慮に欠ける点があったことを重く受けとめ、次の統合校を生かしていきたくと考えています。この木曾境川小学校は、

2001年4月、仮校舎となる現忠生第四小学校で開校し、2002年4月には、現木曾小学校を約1年かけて改造した校舎に移転することになります。

教育委員会では、来年4月に迫った両校の統合を円滑に進め、子どもたちの良好な教育環境の整備、充実した学校づくりを実現、魅力ある学校づくりに向けて、今後更に取り組んでいきます。皆さまのご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

なお、お問い合わせは、学務課学務係(☎724 2176)へ。この木曾境川小学校は、

常任委員会から、学校適正規模適正配置等審議会の答申(1998年12月)では、新しい学校の名称に現学校名を使わないことが明記されている。また、地域の方々から、市広報紙からは、境川小学校に決定したように思われる、「統合準備会での学校名アンケートの実施方法が不備である」等の指摘を受けました。

2001年4月、仮校舎となる現忠生第四小学校で開校し、2002年4月には、現木曾小学校を約1年かけて改造した校舎に移転することになります。

教育委員会では、学校名の選定を進める上での対応が不十分であったり、配慮に欠ける点があったことを重く受けとめ、次の統合校を生かしていきたくと考えています。この木曾境川小学校は、

2001年4月、仮校舎となる現忠生第四小学校で開校し、2002年4月には、現木曾小学校を約1年かけて改造した校舎に移転することになります。

教育委員会では、学校名の選定を進める上での対応が不十分であったり、配慮に欠ける点があったことを重く受けとめ、次の統合校を生かしていきたくと考えています。この木曾境川小学校は、

なお、お問い合わせは、学務課学務係(☎724 2176)へ。この木曾境川小学校は、

「総合的学習の時間」では、まさに子どもたちが自ら学び、課題解決を図っていく学習が行われます。子どもたちの学びが意欲をどう引きだしていくか、また、子どもたち一人ひとりに学習の主導権を、トントンツツしていかか課題の一つになつてきます。各小・中学校では、この「総合的学習の時間」の導入に向け

それは夏を前にした6月のこと、プールにはヤゴが住みついていた。水泳学習を前にしたプール清掃によって死ぬ運命にあるヤゴを救出するということになり、全校児童にPTAも加わった救出劇が繰り広げられました。救出したヤゴは自分たちで作ったビオトープ(生命の生息場所)で飼育すること。そして、その飼育方法を、3年生の研究テーマ「水の中の生き物」の中で取り上げることにしました。「せせら」と名付けたこの学習では、160名が21班に分かれ、ヤゴの育て方、住みやすい環境などについて図書やインターネットで調べました。さらに、地域の方から昔の小川のことや

トンボの話や聞き、たくさんのお話を聞きました。このような情報収集活動を通して、児童の興味、関心がさらに広がって行きました。ヤゴのことを調べた中で、「世界のトンボのこと」、「地域でも生物がどんどん減っていること」、「境川の昔について」、「海の汚れについて」、「これからの地球について」など、知りたいことがどんどん出てきました。強い問題意識も生まれてきました。そして、各班は、それぞれ決めたテーマのもと、課題解決と発表に向けて学習を深めていきました。

最初は、こうした取り組みが、子どもたちが課題を見付け、自ら解決していく学習や地域・学校の特色に応じた学習の推進が今求められています。このような学習を進めるには、保護者・地域の方に協力ボランティアとして教育ボランティアが必要不可欠となつていきます。そのため、これまでほんの一例を紹介しましたが、他校でも様々な取り組みが進められており、「総合的学習」による新しい学習の創造が期待されます。今度も、児童・生徒の社会的な活動体験の場の提供や授業への参画、交流活動など、各学校への地域の方々のご協力をお願いします。